

公立病院の医師確保について
市内文化遺産の把握と活用について
企業誘致について

市長は知事が交代した今後、新
知事に「医師確保の問題」でどうア
プローチしていくのか。
市長 大石新知事は、政策の中で「県
北地域における医師不足解消・医療
体制拡充」と掲げておられた。平戸
市としては、今後も、本市の医療・
介護・福祉政策に医師の確保が必要
不可欠であることを理解していただ
くべく、引き続き、県知事要望の最
優先課題の一つとして、あらゆる機
会をとらえアプローチしていく。

企業誘致の目的は何か。
文化観光工部長 企業誘致は定住
人口の増加という目的があるので、
市の支援策である奨励制度において
は、創業時に一定数の市民を雇用す
ることを条件として設け、市内雇用や
市内居住を促しているところである。
企業を誘致したとしても企業の
従業員が平戸市内に住むという確約
は取れるものなのか。
文化観光工部長 雇用に関しては
企業判断に委ねる部分が大ききこと
から、市内居住を確約として求める
ことは難しいと考えている。

費用をかけた用地造成が必要な
理由は何か。
文化観光工部長 企業側のリスク
と負担を軽減するため、事前に用地
を造成しておくことが企業の新たな
地域に進出することへのハードルを
下げ、また、それを地元行政がしっ
かりと最初の一步から関わる事で、
安心感も抱いて頂き、進出候補先と
しての優先順位を上げてもらうため
である。

各議員のQRから一般質問の録画中継をご覧いただけます。

若者定住対策（教育編）
近藤 芳人（新波クラブ）
統廃合を検討すべき小中学校が
今後も出てくる。プラスに活かすべ
く逆転の発想も必要となる。9学年
が有効に関わり合える学校運営がで
きるならおもしろい。
教育長 義務教育学校や小中一貫校
など、おっしゃるような新たな学校
の在り方も視野に入れて。長期
的な視野で教育を行え、幅広い年齢
層の交流が自然な形で図れる。

時代即したストリート系のス
ポーツ施設（屋外バスケットコート、
スケートボード場など）を整備して
はどうか。こうした施設は「地区か
らの要望」に乗りにくい。また従来
の管理方法（区長宅まで行って書類
を書いてガキを預かり、使用後に掃
除して施設し、指定された方法でガ
キを返しに行く…）ではなく、通り
すがりに空いていれば軽く使う、他
の人がやっているところに加わる…
等、軽い運用方法が望ましい。
教育次長 ご提案のように、時代の
変化に合わせて、スポーツを気軽に
楽しめる環境整備が必要になってき
た。関係部署と連携し検討したい。

燃油価格高騰に伴う支援について
コロナ禍における平戸市独自の支援について
商店街の現状と活性化について
山内 貴史（新波クラブ）
農業や水産業で、様々な業種で
採算ラインが違う中、高騰している
燃油対策の強化が大きな課題であり、
農作物、水産物の安定供給の確保と
経営の安定を実現していくことこそ
が必要だと思いが、現在も行ってい
る本市独自の支援について、期間延
長や補助額の上乗せができないか。
市長 燃油価格は国家的な大きな課
題でもあり、まずは、施設園芸セー
フティネット等を講じていただき、今
後はこのウクライナ情勢等も含めて、
さらなる燃油に対する支援措置があ
るものと思っております。状況を見て、
国への要望とか県への働きかけ、ま
た市独自でできるかどうかは今後の
推移を見ながら考えたい。

今後の人口減少により、消防出
張所の配置や職員数に影響はないか。
市長 当面現状のとおり、本署及び
中津良、生月、田平、大島の4出張
所としながらも、現在協議検討中であ
る離島対策に関することをはじめ、
女性職員の採用や定年延長等による
今後の職員体制を検討した上で職員
数の見直しを行うべきものと考えて
いる。

井元 宏三（大地の会）



池田 稔巳（政和会）



公立病院の医師確保について
市内文化遺産の把握と活用について
企業誘致について



消防行政について
今回の条例改正により消防職員の働き
方や消防組織活動に影響はないのか



副市長 全庁的な観点から言うと、
組織を維持していくには行政事務
と適正な人事管理が求められている。
人材育成やスキルを延ばすには有効
な手立てだと思っております。議会にも相
談しながら前向きに考えてまいりた
い。

今回の条例改正による給料の見
直して、消防組織活動に影響は出
ないのか。
消防長 消防職員が業務を行う上で、
職員のモチベーションが下がるよう
な事があつてはならないと思ってい
る。また、そのことにより市民の安
全安心に支障があつてはならないし、
日頃から特に配慮した上で職員に向
き合ってきたと思っております。ただ、
実際に組織や業務に対する不満を抱
えている職員がいるとするならば、
そこは非常に重要な問題であるので、
職員の意見や思いを尊重した上で真
摯に向き合い、モチベーションが下
がらないよう職員一丸となって取り
組んでまいりたい。